

I. 2023 年 4 - 6 月第 1 四半期のショートアプローチの紹介

2022 年 7 月より皆様と情報を共有している「メタ研ショートアプローチ」の 2023 年 4 月～6 月の発行分は、下表のとおり LME、元素、自動車、中国、リサイクル、オーストラリア、ベースメタルの 11 件になりました。

メタ研の Web 会員サイトに閲覧コーナーを設けておりますので、会員の方はぜひ閲覧ください。今後も引き続きショートアプローチコーナーに掲載した記事の表題はメタ研通信でお伝えしますのでご確認ください。

2023 年 4 月 4 日～6 月 2 2 日

No	タイトル等		カテゴリー
40	宇宙の元素存在度 -元素生々流転-		元素
	2023. 4. 4	ビックバンに始まる宇宙の歴史の中で、各種元素がどのように生成されてきたかについて解説する。	
41	クリアリングハウスについて		LME
	2023. 4. 10	LME における昨年 3 月のニッケル問題に関して、当局の捜査が史上初めて行われることとなったことに対し、LME は取引所破綻回避のためにやむを得ない措置であったと表明した。 本件に関連して破綻の連鎖を回避するための「クリアリングハウス」について、その仕組みと歴史について説明する。	
42	錫相場の急騰		LME
	2023. 4. 26	4 月 1 7 日に発生した上海先物取引所での錫価格の高騰とそれに続く LME への影響等について説明するとともに、価格急変時の取引所の在り方について見解を述べる。	
43	電気自動車と材料（4） -軽量化-		自動車
	2023. 4. 28	電気自動車は重量物である電池を搭載するため、ガソリン車に比べ 200 から 300kg 重くなっている。このため材料を中心に軽量化のための様々な取り組みが行われている。具体的な事例を示しつつ、将来的な材料自体の低 CO2 化についてもレポートする。	

44	中国、アルミニウム、その周辺（３）（企業の形態）		中国
	2023. 5. 9	中国では近年国有企業が重視される「国進民退」の状況が進みつつある。一方、そもそも国有企業と民間企業の定義が明確でなく、色々な企業形態が存在する。 アルミ業界や銅業界を例に中国の企業形態の特長や党との関係などについて解説する。	
45	地球の元素存在度 - 残り物に福あり -		元素
	2023. 5. 15	地球の元素存在度に関して、地球誕生からの歴史との関係や、それぞれの元素の存在度の理由、日本における鉱床の特長などについて解説する	
46	「循環型産業の高度化」（５）		リサイクル
	2023. 5. 23	「環境」と「個人情報保護」を経営方針に掲げた非鉄金属スクラップ問屋 東京都墨田区で三代９０年の故銅問屋を営む増岡商店は、自らの事業を「非鉄金属リサイクルの事業活動を通じて地球環境との共生と調和を経営の重要課題」として取り組みつつ、リサイクル原料供給元の情報管理にも配慮した活動を行っている。 本レポートでは同社の各種の取り組みについて報告する。	
47	金利上昇局面での足元の銅相場と超先物相場		LME
	2023. 6. 2	最近の LME 銅先物価格の動きを題材に、先物取引における価格形成原理とドル金利の関係を解説するとともに、過去には考えられなかった５年物・１０年物といった超先物での価格状況について所感を示す。	
48	電気自動車と材料（５） -効率化-		自動車
	2023. 6. 8	電気自動車はガソリン車に比べパワーユニット（インバーター・モーター）の効率が高い一方で、電費（燃費）改善余地が少ない状況にある。解決策として、軽量化や電気損失の低減、モーター等の効率向上等の方策が求められているが、その実現には各種材料の開発と安定供給が重要である。	

49	オーストラリアの重要鉱物政策		オーストラリア
	2023. 6. 13	資源大国であるオーストラリアの重要鉱物政策の概要、米国・日本等との国際協力の動き等最近の状況について解説する。	
50	中国の亜鉛輸出入について		ベースメタル
	2023. 6. 22	亜鉛地金生産、消費ともに世界シェアのほぼ半分を占める中国は長らく亜鉛純輸入国であったが2022年、15年ぶりに純輸出国となった。背景としてエネルギー価格の高騰に伴う欧州での亜鉛製錬所の減産やLMEでの亜鉛在庫の減少があげられる。2023年において、この状況がどのように変化するか考察する。	